

## 第3回 石狩川流域生態系ネットワーク推進協議会

日 時：令和8年2月13日（金）15時00分～16時30分  
場 所：北海道開発局 研修センター 講堂

### 次第

#### 議事

- (1) 委員の承認・規約の改正について
- (2) 令和7年度の取組状況

石狩川流域生態系ネットワーク形成の検討体制について

石狩川流域生態系ネットワークの普及に向けた情報発信について

- (3) 次年度に向けた意見交換

### 配布資料

#### 議事次第

#### 出席者名簿

#### 配席図

資料1 委員の承認・規約の改正について

資料2-1 石狩川流域生態系ネットワーク形成の検討体制について

資料2-2 石狩川流域生態系ネットワークの普及に向けた情報発信について

資料2-3 パンフレット「石狩川流域の自然と地域の未来をつなぐ

石狩川流域生態系ネットワーク」(案)

資料3 次年度に向けた意見交換

参考資料1 石狩川流域生態系ネットワーク推進協議会 設立趣旨

参考資料2 第10回水辺からはじまる生態系ネットワーク全国フォーラム フライヤー

第3回 石狩川流域生態系ネットワーク推進協議会

出席者名簿

括弧内は代理出席

区分	氏名	所属	備考
学識者	赤坂 猛	元・酪農学園大学環境共生学類教授	
	卜部 浩一	北海道立総合研究機構 さけます・内水面水産試験場 さけます資源部 さけます管理グループ 研究主幹	
	瀧 健太郎	京都大学 防災研究所 水資源環境研究センター 教授	
	中村 太士	北海道大学 名誉教授	
	藤巻 裕蔵	帯広畜産大学 名誉教授	
	正富 宏之	専修大学北海道短期大学 名誉教授	
	矢部 和夫	札幌市立大学 名誉教授	
	山田 朋人	北海道大学大学院 工学研究院 土木工学部門 河川・流域工学研究室 教授	欠席
自治体	秋元 克広 (村瀬 尚久)	札幌市長 (札幌市 下水道河川局 事業推進部 河川担当部長)	
	今津 寛介 (富岡 賢司)	旭川市長 (旭川市 土木部長)	web
	厚谷 司	夕張市長	
	松野 哲 (宮井 宏幸)	岩見沢市長 (岩見沢市 建設部 建設管理課長)	web
	桜井 恒	美唄市長	
	北村 真	芦別市長	
	後藤 好人 (西山 健太郎)	江別市長 (江別市 建設部 土木事務所 治水課長)	web
	畠山 涉	赤平市市長	web
	西城 賢策 (田中 栄輔)	三笠市長 (建設部 建設課長)	web
	横田 隆一 (小尾 千智)	千歳市長 (建設部長)	
	前田 康吉 (水田 辰夫)	滝川市長 (滝川市 建設部 都市計画課 課長補佐)	web
	飯澤 明彦	砂川市長	web
	柴田 一孔	歌志内市長	web
	田中 昌幸 (藤井 紀久也)	深川市長 (深川市 建設水道部長 兼 都市建設課長)	web
	北 猛俊 (西出 正人)	富良野市長 (富良野市 建設水道部長)	web

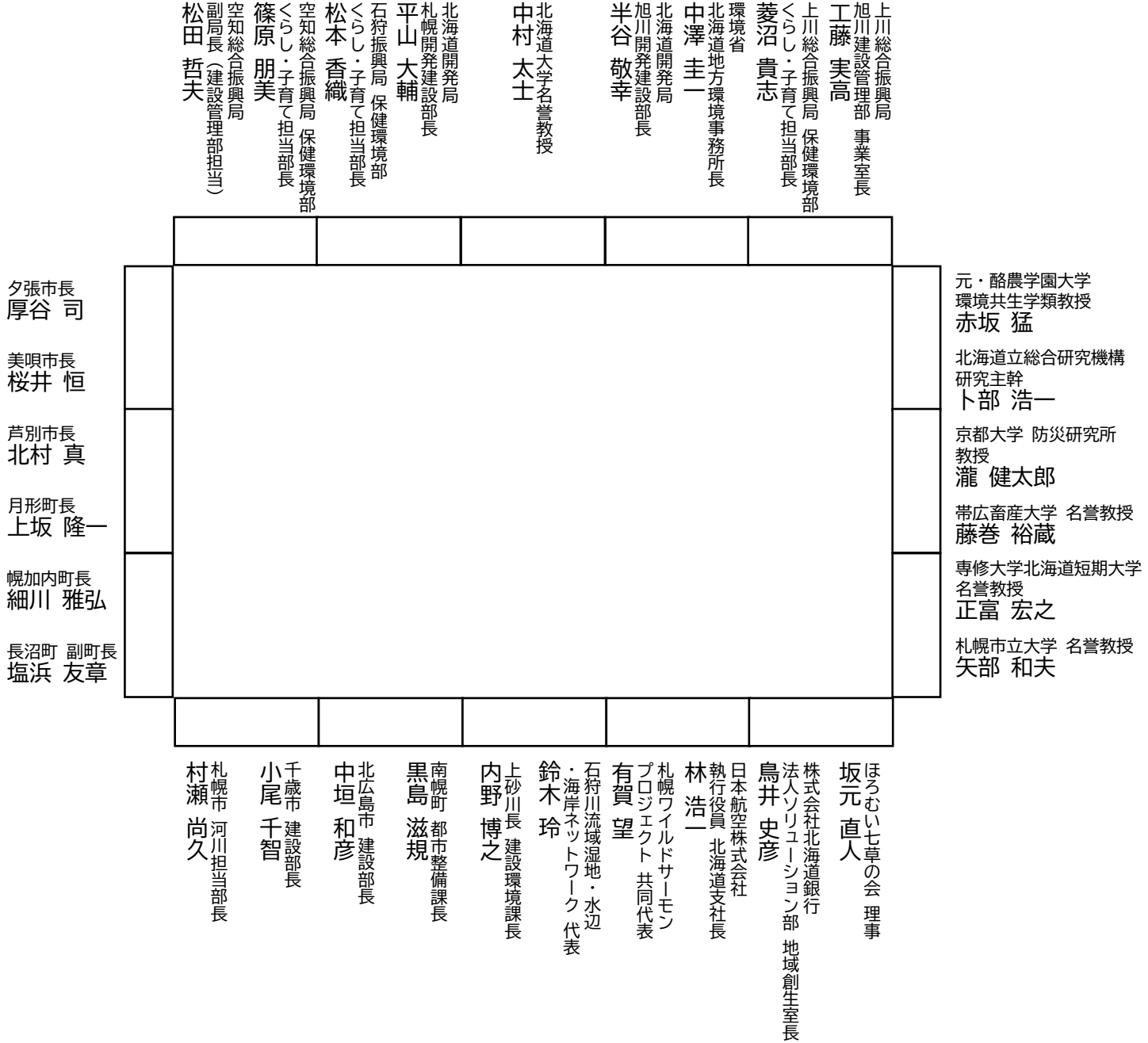
区分	氏名	所属	備考
	原田 裕 (寺西 健一)	恵庭市長 (恵庭市 土木課主査)	web
	上野 正三 (中垣 和彦)	北広島市長 (北広島市 建設部長)	
	加藤 龍幸 (中野 康男)	石狩市長 (石狩市 環境市民部 自然保護課長)	web
	後藤 正洋 (坪井 祐介)	当別町長 (当別町 建設水道部 建設課長)	web
	石塚 隆 (東 真市)	新篠津村長 (新篠津村 産業建設課長)	web
	大崎 貞二 (黒島 滋規)	南幌町長 (南幌町 都市整備課長)	
	三本 英司 (辻脇 泰弘)	奈井江町長 (奈井江町 副町長)	web
	奥山 光一 (内野 博之)	上砂川町長 (上砂川町 建設環境課長)	
	松村 諭 (中道 康彦)	由仁町長 (由仁町 建設水道課長)	web
	齋藤 良彦 (塩浜 友章)	長沼町長 (長沼町 副町長)	
	佐々木 学 (谷口 良之)	栗山町長 (栗山町 建設課長)	web
	上坂 隆一	月形町長	
	川畑 智昭 (伏見 友輝)	浦臼町長 (浦臼町 総務課 企画係 主査)	web
	谷口 秀樹	新十津川町長	web
	滝本 昇司 (西田 慎也)	妹背牛町長 (妹背牛町 建設課長)	web
	澁谷 信人 (北垣 慎二)	秩父別町長 (秩父別町 企画課長)	web
	白川 久純	雨竜町長	web
	佐々木 康宏	北竜町長	web
	横山 茂 (瀧本 周三)	沼田町長 (沼田町 建設課長)	web
	谷 寿男 (山本 裕太)	鷹栖町長 (鷹栖町 まちづくり推進課 企画政策係長)	web
	山本 進 (板宮 真樹)	東神楽町長 (東神楽町 総務課長)	web

区分	氏名	所属	備考
	村椿 哲朗	当麻町長	欠席
	村中 一徳	比布町長	欠席
	矢部 福二郎	愛別町長	web
	西木 光英 (太田 涼介)	上川町長 (上川町 地域魅力創造課 地域魅力創造グループ 企画係長)	web
	菊地 伸 (藤井 貴慎)	東川町長 (東川町 企画総務課長)	web
	角和 浩幸 (今瀧 毅)	美瑛町長 (美瑛町 建設水道課長)	web
	斉藤 繁	上富良野町長	欠席
	小松田 清	中富良野町長	欠席
	高橋 秀樹 (辻澤 均)	南富良野町長 (南富良野町 企画課長)	web
	細川 雅弘	幌加内町長	
行政機関	平山 大輔	国土交通省 北海道開発局 札幌開発建設部長	
	半谷 敬幸	国土交通省 北海道開発局 旭川開発建設部長	
	中澤 圭一	環境省 北海道地方環境事務所長	
	北山 雄彦 (松本 香織)	北海道 石狩振興局長 (石狩振興局 保健環境部 くらし・子育て担当部長)	
	鷺尾 亨 (篠原 朋美)	北海道 空知総合振興局長 (北海道 空知総合振興局 くらし・子育て担当部長)	
	嶋田 貴洋 (菱沼 貴志)	北海道 上川総合振興局長 (北海道 上川総合振興局 くらし・子育て担当部長)	
	松田 哲夫	北海道 空知総合振興局 副局長 (建設管理部担当)	
	吉田 安範 (工藤 実高)	北海道 上川総合振興局 副局長 (建設管理部担当) (北海道 上川総合振興局 旭川建設管理部 事業室長)	
関係団体等	櫻井 禎久 (加藤 里奈)	イオン北海道株式会社 管理本部 コーポレートコミュニケーション部長 (イオン北海道株式会社 管理本部 コーポレートコミュニケーション部 環境・社会貢献グループ グループマネージャー)	web
	鈴木 玲	石狩川流域湿地・水辺・海岸ネットワーク 代表	
	有賀 望	札幌ワイルドサーモンプロジェクト 共同代表	
	林 浩一	日本航空株式会社 執行役員 北海道支社長	
	川根 範也 (対馬 良祐)	株式会社北洋銀行 経営企画部 サステナビリティ推進室長 (株式会社北洋銀行 経営企画部 サステナビリティ推進室 統括主任調査役)	web
中村 智	公益社団法人北海道観光機構 専務理事	web	

区分	氏名	所属	備考
	鳥井 史彦	株式会社北海道銀行 法人ソリューション部 地域創生室長	
	高田 聡 (児玉 圭一郎)	北海道経済連合会 専務理事 (北海道経済連合会 地域政策グループ総括部長)	web
	堂屋敷 誠	北海道自然電力株式会社 代表取締役副社長	web
	木下 範彰 (木下 浩司)	北海道電力株式会社 執行役員 総務・環境部長 (北海道電力株式会社 総務・環境部 環境推進グループリーダー)	web
	坂元 直人	ほろむい七草の会 理事	
	早川 怜那	三井住友海上火災保険株式会社 北海道支店 法人営業課 地方創生プロジェクト サブリーダー	web

第3回 石狩川流域生態系ネットワーク推進協議会

配席図



## 委員の承認・規約の改正について

### 石狩川流域生態系ネットワーク推進協議会 規約

#### (改正案)

##### (名称)

第1条 本会は、「石狩川流域生態系ネットワーク推進協議会」（以下、「協議会」という。）と称する。

##### (目的)

第2条 協議会は、多様な主体の連携と協働のもと、健全な生態系ネットワークの形成に取り組み、生物生息環境を保全・再生するとともに、野生生物と地域生活・産業の両立を図り、豊かな自然資本の持続的な活用による地域振興・経済活性化を実現するための方策の検討と取組の推進を目的とする。

##### (協議事項)

第3条 協議会では、前条に掲げる目的に向け、以下の事項について協議する。

- 一 石狩川流域における生態系ネットワーク推進に関する基本方針や将来像等をまとめた全体構想の策定に関すること
- 二 石狩川流域における生態系ネットワーク推進に関する情報共有、普及・啓発及び情報発信に関すること
- 三 その他、前条の目的を達成するために必要な事項

##### (組織)

第4条 協議会の委員は、別表に掲げる者によって組織する。ただし、必要に応じ委員を追加、変更、解任することができる。

- 2 委員の任期は、委員就任の日からおおむね2年間とし、再任を妨げない。ただし、自治体、行政機関、関係団体等の委員に異動があった場合は後任者が引き継ぐものとし、その任期は前任者の残任期間とする。
- 3 委員の追加等は、会長が委員に確認の上、都度認めることができる。
- 4 委員に関係団体等を追加する場合は、公募によるものとする。

規約第4条第4項に基づき協議会委員の公募を実施。

(募集期間 令和7年11月7日～令和7年12月5日)

##### (会長)

第5条 協議会に会長1名を置く。会長は、委員の互選によりこれを定める。

- 2 会長は、協議会を代表し、協議会の円滑な運営と進行を総括する。
- 3 会長に事故等があった時には、会長が予め指名した委員がその職務を代理する。

(会議の招集等)

第6条 協議会の会議は、会長が招集する。

- 2 やむを得ない理由で委員が出席できない場合は、代理出席を認める。
- 3 会長は、必要に応じ、協議会に委員以外の関係者の出席を要請し、意見を聞くことができる。
- 4 第4条4により委員を公募した場合、その結果を協議会に報告する。

(部会)

第7条 第3条に掲げる事項を具体的に推進するため、必要に応じ部会を置くことができる。

- 2 部会の構成、運営上必要な事項及び協議事項等については、事務局が定めるものとする。構成員の任期は就任の日からおおむね2年間とする。
- 3 部会は、協議事項について、その経過及び結果を協議会に報告する。

(会議の公開)

第8条 協議会は、原則として公開とする。ただし、会長の判断により非公開とすることができる。

- 2 協議会の議事要旨及び資料は、ホームページ等で公開するものとする。ただし、野生動植物の保護や個人情報の保護等、公開により支障が生ずると予め想定される事項については、原則として委員限りの取扱いとする。

(事務局)

第9条 協議会の事務局は、国土交通省北海道開発局札幌開発建設部及び旭川開発建設部とする。

(その他)

第10条 この規約に定めるもののほか、協議会の運営に関して必要な事項は、その都度会長が定める。

- 2 この規約の改正については、協議会において定める。

附 則

この規約は、令和6年2月7日から施行する。

この規約は、令和7年2月14日から改正する。

この規約は、令和8年 月 日から改正する。

別表 石狩川流域生態系ネットワーク推進協議会 委員名簿

	氏名	所属等
学識者	赤坂 猛	元・酪農学園大学環境共生学類教授
	卜部 浩一	北海道立総合研究機構 さけます・内水面水産試験場 さけます資源部 さけます管理グループ 研究主幹
	瀧 健太郎	京都大学 防災研究所 水資源環境研究センター 教授
	中村 太士	北海道大学 名誉教授
	藤巻 裕蔵	帯広畜産大学 名誉教授
	正富 宏之	専修大学北海道短期大学 名誉教授
	矢部 和夫	札幌市立大学 名誉教授
	山田 朋人	北海道大学大学院 工学研究院 土木工学部門 河川・流域工学研究室 教授
自治体	札幌市長	
	旭川市長	
	夕張市長	
	岩見沢市長	
	美唄市長	
	芦別市長	
	江別市長	
	赤平市長	
	三笠市長	
	千歳市長	
	滝川市長	
	砂川市長	
	歌志内市長	
	深川市長	
	富良野市長	
	恵庭市長	
	北広島市長	
	石狩市長	
	当別町長	
	新篠津村長	
南幌町長		
奈井江町長		
上砂川町長		
由仁町長		

	長沼町長
	栗山町長
	月形町長
	浦臼町長
	新十津川町長
	妹背牛町長
	秩父別町長
	雨竜町長
	北竜町長
	沼田町長
	鷹栖町長
	東神楽町長
	当麻町長
	比布町長
	愛別町長
	上川町長
	東川町長
	美瑛町長
	上富良野町長
	中富良野町長
	南富良野町長
	幌加内町長
行政機関	国土交通省 北海道開発局 札幌開発建設部長
	国土交通省 北海道開発局 旭川開発建設部長
	環境省 北海道地方環境事務所長
	北海道 石狩振興局長
	北海道 空知総合振興局長
	北海道 上川総合振興局長
	北海道 空知総合振興局副局長（建設管理部担当）
	北海道 上川総合振興局副局長（建設管理部担当）
関係団体等 (50音順)	イオン北海道株式会社 管理本部 コーポレートコミュニケーション部長
	石狩川流域湿地・水辺・海岸ネットワーク 代表
	札幌ワイルドサーモンプロジェクト 共同代表
	日本航空株式会社 執行役員 北海道支社長
	株式会社北洋銀行 経営企画部 サステナビリティ推進室長
	公益社団法人北海道観光機構 専務理事

株式会社北海道銀行 法人ソリューション部 地域創生室長
北海道経済連合会 専務理事
北海道自然電力株式会社 代表取締役副社長
北海道電力株式会社 執行役員 総務・環境部長
ほろむい七草の会 理事
三井住友海上火災保険株式会社 北海道支店 法人営業課 地方創生プロジェクト サブリーダー

## 第3回 石狩川流域生態系ネットワーク推進協議会

# 令和7年度の取組状況 石狩川流域生態系ネットワーク形成 の検討体制について

---

令和8年2月13日  
札幌開発建設部

# 石狩川流域生態系ネットワーク形成の検討体制

石狩川流域生態系ネットワーク推進に向けて、多様な主体の連携・協働を目指した検討体制を構築している。令和7年度は、これまでに協議会・部会等を7回開催した。

石狩川流域生態系ネットワーク推進協議会  
R6.2設立  
目的：生物生息環境を保全・再生するとともに、野生生物と地域生活・産業の両立を図り、豊かな自然資本の持続的な活用による地域振興・経済活性化を実現するための方策の検討と取組の推進  
構成員：学識者、自治体、行政機関、関係団体等  
事務局：北海道開発局 札幌開発建設部、北海道開発局 旭川開発建設部

令和8年2月現在

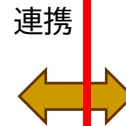


企画部会  
R6.10設置  
構成員：自治体、行政機関、関係団体等  
事務局：札幌開発建設部、旭川開発建設部  
R7.8.28開催



令和7年度設立

タンチョウと共存できる流域づくり協議会  
R6.12設立  
目的：タンチョウと地域生活・産業との共存や、タンチョウを指標とする生態系ネットワークの形成に取り組み、持続可能な地域づくり及び健全な生態系ネットワークの形成に資する  
構成員：学識者、自治体、行政機関  
事務局：北海道開発局 札幌開発建設部  
R8.2.13開催



イトウも棲めるまちづくり推進協議会  
R7.8設立  
目的：イトウが安定して生息する流域環境を地域の価値として継承するとともに、イトウを指標とする自然環境の保全・再生及び創出やイトウを活用した地域振興や経済活性化に取り組み、持続可能な地域づくり及び健全な生態系ネットワークの形成に資する  
構成員：学識者、関係団体、自治体、行政機関  
事務局：北海道開発局 札幌開発建設部  
R7.8.12開催

生息環境専門部会  
R6.12設置  
構成員：学識者、自治体、行政機関等  
事務局：札幌開発建設部、北広島市、長沼町  
R7.11.14開催

長沼町タンチョウも  
住めるまちづくり専門部会  
R7.1設置  
構成員：学識者、長沼町民、団体等  
事務局：長沼町、札幌開発建設部  
R7.12.9開催

生息環境ワーキンググループ  
R7.12設置  
構成員：学識者、関係団体、自治体、行政機関  
事務局：札幌開発建設部  
R7.12.24開催

地域振興専門部会  
R7.12設置  
構成員：学識者、関係団体、自治体、行政機関  
事務局：札幌開発建設部  
R7.12.24開催

# 第2回企画部会 開催結果概要

石狩川流域生態系ネットワーク形成のための具体的取組について意見を交換しました！

- 開催日時：令和7年8月28日（木）13:00～16:50
- 開催場所：札幌市教育文化会館 3階 研修室305
- 出席者：委員50名、オブザーバー等35名（WEB参加含む）

## 事例視察

多様な主体との連携・協働の事例として、札幌ワイルドサーモンプロジェクトによる豊平川の野生サケ生息環境整備の取組を視察し、意見交換を行いました。



### 視察箇所1 JR鉄道橋上流左岸

サケの産卵床整備のため、地元企業と連携した水路の保全・再生作業の実施場所

### 視察箇所2 平和橋上流右岸

サケの産卵床整備のため、企業・高校生と協働で行う産卵床整備の実施場所

## 企画部会 会議

### 議 事

- (1) 規約の改定について
- (2) ロゴマークの制作について
- (3) 広報資料の制作について
- (4) 石狩川流域生態系ネットワークに関する協議会の開催状況について



- 規約の改定が承認され、新たに5名の委員が追加されました。
- 石狩川流域生態系ネットワークのロゴマーク事務局案が提案され、デザイン等について意見交換を行いました。
- 石狩川流域生態系ネットワークの広報用資料の事務局案が提案されました。

### 基調講演

#### 生き物と気象・気候

株式会社ウェザーマップ

会長

森田 正光 様

気象予報士

國本 未華 様



森田 正光様



國本 未華様

気候変動が生態系にもたらす影響について、気象予報士の視点を交えてご講演いただきました。生態系を保全することの重要性を再認識し、今後石狩川流域での取組を進めるうえで非常に有意義なご講演でした。

### 【唐澤部会長コメント】

- ・ 治水と定量的な環境目標の両立を目指して最適な河川整備を検討していきたい。
- ・ 会議で出た意見をもとに、パンフレット・ロゴマークの作成を進めていきたい。



部会長  
札幌開発建設部  
唐澤 圭 特定治水事業対策官

### 企画部会で出た主な意見

- サケの産卵域は大河川の場合が多いが、サクラマスは上流域で産卵するので道や市町村の管理区間でも取組が考えられる。
- 今後ロゴをバリエーションを変えて使用する可能性を考えると、より簡素なデザインが好ましい。
- 生態系ネットワークの認知度向上のため、ロゴマーク投票呼びかけポスターにも生態系ネットワークの説明があった方がよいのではないかと。さらに、生態系ネットワークがどのように日常生活に関わってくるかなど実感を持ちやすくする工夫があると継続的な注目度も高くなるものと思われる。



共同代表  
有賀 望 委員



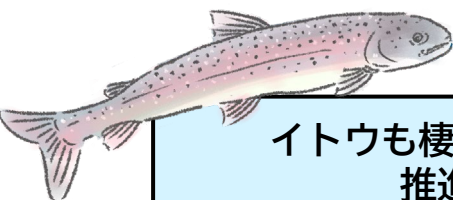
日本航空株式会社  
北海道支社  
企画総務部総務グループ  
薬師寺 俊充 チーム長



イオン北海道株式会社 管理本部  
コーポレートコミュニケーション部  
千田 愛子 マネージャー

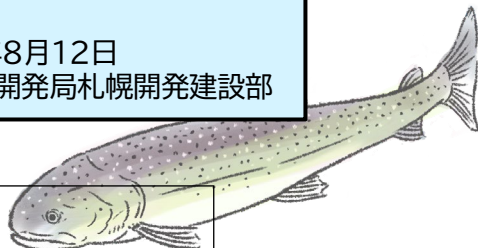
# イトウも棲めるまちづくり推進協議会について

生態・地域振興の両面で重要な価値を持つ「イトウ」をシンボルとし、持続可能な地域づくりと健全な生態系ネットワークの形成に資することを目的として協議会を設立した。



## イトウも棲めるまちづくり 推進協議会

設立：令和7年8月12日  
事務局：国土交通省北海道開発局札幌開発建設部



生息環境  
ワーキンググループ  
R7.12設立

地域振興専門部会  
R7.12設立



令和7年8月12日に開催した第1回協議会では、協議会設立を承認し、今後の進め方を協議した。併せて文化庁 文化財第二課 江戸 謙顕 主任文化財調査官による「イトウの現在と未来～イトウを指標・象徴とした健全な河川環境の保全と活用、そして地域振興へ～」と題した基調講演を実施した。令和7年12月24日に、第1回生息環境ワーキンググループと第1回地域振興専門部会を同日開催。

### 協議会委員名簿

	氏名	所属等
学識者	卜部 浩一	北海道立総合研究機構 さけます・内水面水産試験場 さけます資源部 さけます管理グループ 研究主幹
	大光明 宏武	南富良野町教育委員会 主査（学芸員）
	木村 宏	北海道大学 観光学高等研究センター 客員教授
	中村 太士	北海道大学 名誉教授
	山田 朋人	北海道大学大学院 工学研究院 土木工学部門 河川・流域工学研究室 教授
関係団体	中野 信之	朱鞠内湖淡水漁業協同組合 代表理事組合長
	秋葉 健司	イトウ生態保全研究ネットワーク 代表
自治体	南富良野町長	
	幌加内町長	
行政機関	北海道開発局 札幌開発建設部 次長	
	北海道開発局 札幌開発建設部 空知川河川事務所長	
	北海道開発局 札幌開発建設部 滝川河川事務所長	
	北海道開発局 札幌開発建設部 雨竜川ダム建設事業所長	
	環境省 北海道地方環境事務所 野生生物課長	
	林野庁 北海道森林管理局 上川南部森林管理署長	
	林野庁 北海道森林管理局 空知森林管理署 北空知支署長	
	北海道上川総合振興局 旭川建設管理部 事業室 治水課長	

## 第3回 石狩川流域生態系ネットワーク推進協議会

# 令和7年度の取組状況 石狩川流域生態系ネットワークの 普及に向けた情報発信について

---

令和8年2月13日  
札幌開発建設部

# 令和7年度の検討状況

石狩川流域における生態系ネットワーク推進に関する情報共有、普及・啓発及び情報発信を有効に行っていくための方策として、パンフレットの制作、ソーシャルメディアの活用、ロゴマークの制作について検討した。

検討項目	ねらい・目的	検討状況
パンフレットの制作	石狩川流域生態系ネットワークについて知ってもらうとともに、取組のイメージを共有し、多様な主体の参画を促進する。	構成、掲載内容を検討し、パンフレット素案を作成し、第2回企画部会で制作の方向性を議論いただいた。 企画部会で確認した政策の方向性を踏まえて、流域の様々な主体・取組を取材し、パンフレット案を作成した。
ソーシャルメディアの活用	情報を発信する窓口とし、多様な主体が参画できる機会を増やす。	第2回企画部会のSWSP事例視察において、高校生が新しく取組に参画する契機としてソーシャルメディアが機能したことを学び、本協議会でも活用することを検討するために活用事例を収集した。
ロゴマークの制作・活用	石狩川流域生態系ネットワークが目指すビジョンの多様な主体との共有を容易にする。 石狩川流域生態系ネットワークを認知してもらえる機会を増やす。 石狩川流域生態系ネットワークに関係する取組主体の連帯感を生む。	制作方針・方法・素案等を第2回企画部会で議論いただいた。 企画部会での意見を踏まえ、ロゴマークの制作・活用事例を収集し、ロゴマークの制作方針（要件等）を改めて検討した。

# パンフレットの制作について

石狩川流域生態系ネットワークについて、流域の民間企業・団体や市民等への普及啓発や、取組への参画促進に活用することを目的としたパンフレットを制作した。

## ■これまでの経緯

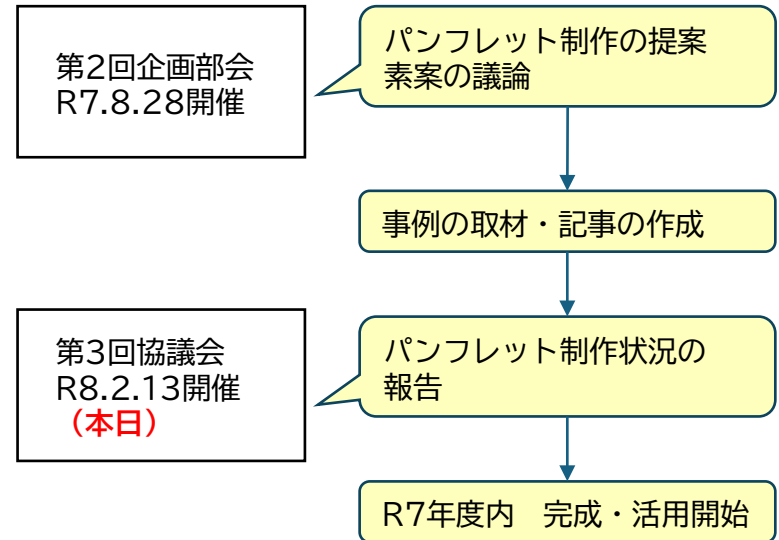
- ◆ 石狩川流域生態系ネットワーク推進協議会が設立され1年超が経過し、多様な主体の巻き込みや取組の発展を図る上で、取組等の情報を効果的に発信するステージにきている。
- ◆ 北海道における生態系ネットワーク形成は本協議会が先駆的取組であり、生態系ネットワークに対する認知度はまだ低い状況。
- ◆ 現在、取組を知る機会は協議会の傍聴や北海道開発局のHP等に限られ、汎用的な広報用資料が存在しない。



- ◆ 石狩川流域生態系ネットワークを紹介するパンフレットを制作し、流域の民間企業・団体や市民等への普及啓発や、取組への参画促進に活用する。
- ◆ 多様な主体が参画する際に参考となる、先進的な取組事例を分野ごとに紹介する。

ページ	見出し	内容
表紙	タイトル	
見開き1	目次	目次
	ネイチャーポジティブのために	パンフレットの制作趣旨の紹介
見開き2	生態系ネットワークとは	生態系ネットワークの概要や意義の紹介
見開き3	石狩川流域の生きものと自然	石狩川流域の自然環境・魅力の紹介
見開き4	北海道開発局による取り組み	北海道開発局の河川事業における関連事業の紹介
見開き5	生態系ネットワークの参考となる先進的な取組	分野ごとの取り組み方の例示・事例紹介 1. 市民NPO 2. 企業
見開き6		3. 行政 4. 物産観光
見開き7		5. 農林水産業
見開き8		6. 教育 7. 報道
見開き9		協議会について
裏表紙	奥付	財政支援制度集等の関係資料の紹介

## ■制作スケジュール



お気づきの点があれば、ご指摘ください。  
印刷後、製本版を委員の皆様にも送付します。2

# ソーシャルメディアの活用について

情報を発信する窓口とし、多様な主体が参画できる機会を増やすことを目的として、ソーシャルメディアを活用する方策について検討した。

## ■目的・ねらい

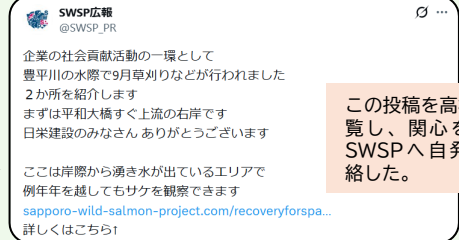
個人が日常の中で触れる情報源は多様化している。ソーシャルメディアが有する、情報を双方向に、即時的に発信し、普段直接関わることのない人とつながることができるという強みを生かし、多様な主体が関われる機会を創出する。


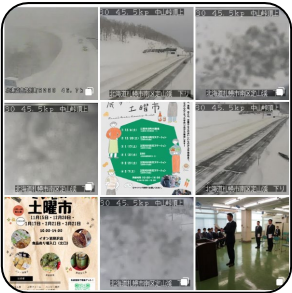


## ■ソーシャル・メディアの種類、活用事例

※利用者属性の参考文献：2025年12月版！性別・年齢別 SNSユーザー数（株式会社ガイアックス、令和7年12月）

### 【ソーシャルメディア活用による取組の発展事例】

札幌ワイルドサーモンプロジェクトは広報ツールとしてXを活用している。令和6年度、Xの投稿を見て関心を持った市内の高校生からの連絡があり、令和7年度の河川環境整備活動への参加につながった。



	X	Facebook	Instagram
概要	リアルタイム性と拡散力に優れ、最新の情報を迅速に広く伝えられる	投稿内容を比較的詳しく伝えることができ、継続的な情報共有や記録に適している	写真や短い動画を通じて、自然環境や活動の雰囲気を直感的に伝えられる
利用者属性※	年代：10～30代の利用率が高い 性別：男性の利用率が高い	年代：30～50代の利用率が高い 性別：男性の利用率が高い	年代：10～30代の利用率が高い 性別：女性の利用率が高い
活用事例	<p>北海道開発局、札幌開発建設部</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ イベントや取組情報ほか、道路・河川の状況等も発信している。</li> </ul>   <p>画像出典：X @mlit_hkd_sp</p>	<p>タンチョウと共存できる流域づくり協議会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 長沼町が運営し「タンチョウも住めるまちづくり」関連情報を発信している。</li> </ul>  <p>画像出典：Facebook @NaganumaTancho</p>	<p>北海道開発局、札幌開発建設部</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 動画等多用してイベントや取組の情報等を発信している。</li> </ul>  <p>画像出典：instagram @mlit_hkd_sapporo</p> <p>タンチョウと共存できる流域づくり協議会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 利用者層の違いを踏まえて、情報発信チャンネルを増やす目的でFBに加え作成。</li> </ul>

# ロゴマークの制作・活用について

「ビジョンの共有」「認知される機会の増加」「取組主体の連帯感創出」を効果的に発揮できる「仕掛け」として、ロゴマークの制作を行う。

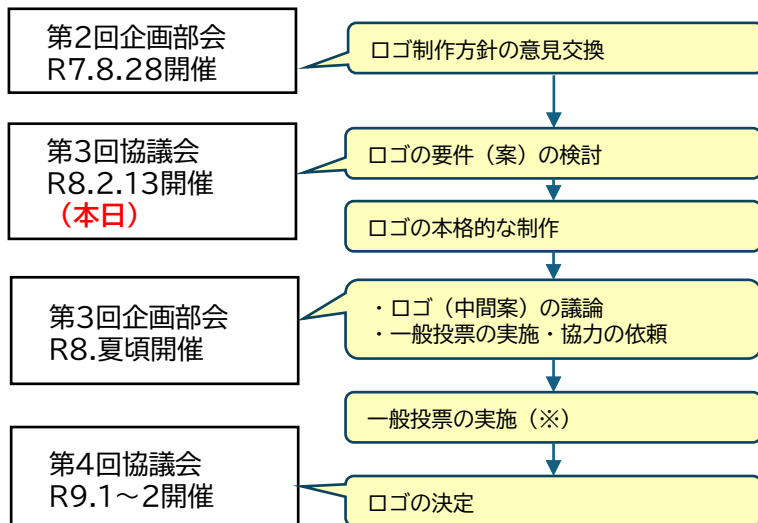
## ■目的・ねらい

- 石狩川流域生態系ネットワークが目指すビジョンの多様な主体との共有を容易にする。  
⇒ **ビジョンをシンプルな図柄で表現することで、直感的に理解してもらえるようにする。**
- 石狩川流域生態系ネットワークを認知してもらえる機会を増やす。  
⇒ **様々な場面（イベント、ポスター等発行物、商品パッケージなど）でロゴマークを標示することで、認知度を向上する。**
- 石狩川流域生態系ネットワークに関係する取組主体の連帯感を生む。  
⇒ **共通のロゴマークを使用することで、共通のビジョンや方向性を持って取り組んでいく意識を醸成する。**

⇒ **ロゴマークを制作することが、普及・啓発及び情報発信に有効**

## ■制作方法・スケジュール

第2回協議会等でも、ロゴ制作について議論



## ■第2回企画部会で出された意見

### デザインに関する意見

- ・ネットワークという視点が伝わるようなデザインが良い
- ・あまり要素を詰め込みすぎず、また、小さく印刷しても読み取れるように、より簡素なデザインが好ましい
- ・SDGsのような既存のロゴのデザインを参考にしてはどうか
- ・サケなど水域に関連した生き物に焦点を当てたほうが良いのではないか
- ・配色は緑色よりも青色の方が「石狩川らしさ」が出ると思う

### バリエーションに関する意見

- ・用途に応じた複数のバリエーション（横長、丸形等）を用意するのが良い

### 用途に関する意見


- ・ロゴの用途を明確にする必要がある

### ※一般投票の実施について

- ・制作を通じた普及啓発・参加促進の工夫として、ロゴマークは候補を複数制作し、一般投票により最終候補を決定することを検討する
- ・詳細は、令和8年度に企画部会で調整予定

# ロゴマーク制作・活用の参考事例

ロゴマークの制作方針（要件等）を検討するにあたり、既存のロゴマークではどのような制作・活用がなされているのかを参考とするために事例を収集・整理した。




**タンチョウも住めるまちづくり**

「タンチョウも住めるまちづくり」の取組の普及啓発及び、取組へ親しみを持ってもらうことを目的に、平成30年度に公募により作成されたロゴマーク。

**ポイント**

- タンチョウ、それを迎え入れる人、舞鶴遊水地などを表現。
- 使用要領を町役場が策定しており、関連商品のパッケージ等にも活用。



タンチョウも住めるまちづくり  
ゆめひりかで舞鶴、夢田遊水地


純米酒造 夢田酒造

Yumeharu

【画像出典】JANAがぬま

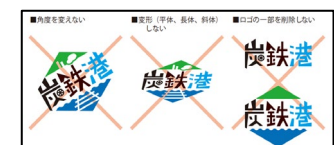
**炭鉄港**

日本遺産「炭鉄港」を広くPRするために北海道空知総合振興局が作成したロゴマーク。




**ポイント**

- 日本遺産名「炭鉄港」をロゴマークに落とし込んだわかりやすいデザイン。
- カラー指定、単色指定、余白、最小使用サイズ、禁止事項などを盛り込んだ「デザインマニュアル」を作成し公開。



■ 黒色を指定しない  
■ 黒色（中央、全体、斜体）を指定しない  
■ ロゴの一部を削除しない

禁止事項の例（デザインマニュアルより抜粋）



**関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会**

協議会の活動を更に推進する一助とすることを目的として、協議会のシンボルとして、平成30年度に公募により作成されたロゴマーク。

**ポイント**

- 関東地方の地図、指標種のクワノトリをわかりやすくデザイン。

**EXPO 2025 大阪・関西万博**

令和7年に開催された大阪・関西万博の周知と更なる機運の醸成を目的として公募により作成されたロゴマーク。




OSAKA, KANSAI, JAPAN  
EXPO 2025

OSAKA, KANSAI, JAPAN  
EXPO 2025

たて組み      よこ組み

**ポイント**

- 「デザインマニュアル」を作成。
- ロゴマークとロゴタイプを制作し、たて組みとよこ組みとを規定。



**魚のゆりかご水田米**

琵琶湖から田んぼに遡上してきた魚が、産卵し、稚魚が育成した水田で栽培された米を「魚のゆりかご水田米」として認証しており、その認証を示すロゴマーク。

**ポイント**

- 認証米の目印として活用。
- 魚、米のモチーフを表現。

魚のゆりかご水田米

**えるぼし認定・プラチナえるぼし認定**

女性活躍推進法に基づき、女性の活躍に関する状況が優良な企業が、厚生労働大臣の認定を受けた場合に、商品や広告などに付することができる認定マーク。

**ポイント**

- 認証の目印として活用。
- 認証の段階に応じた異なるデザインがつけられている。



女性が活躍しています  
女性が活躍しています  
女性が活躍しています  
プラチナえるぼし  
女性が活躍しています

**木曾三川流域エコネット応援団**

木曾三川流域生態系ネットワーク推進協議会が結成した木曾三川流域エコネット応援団（地域の様々な団体が参加し、情報共有等を図る）のロゴマーク。



木曾三川流域  
エコネット  
応援団  
人生自然を地域につなげる

変更前      変更後

**ポイント**

- 令和元年度に指標種にニホンウナギを加えたことに伴い、ロゴにも同モチーフを追加した。

# ロゴマーク制作方針（要件等）（案）

ロゴマークの本格的な制作に入る前に、その制作方針（要件等）を固め、完成形のロゴマークのイメージを協議会委員間で共有する。

- ・ 本要件は、ロゴマークを制作する上で最低限必要な情報や条件を整理し、制作内容の齟齬を防止するためのもの。

## 1. ロゴに込めるメッセージ

- ・ 《石狩川流域生態系ネットワーク推進協議会 設立趣旨》にも掲げる下記の考え方をロゴに込める。

多様な主体の連携と協働のもと健全な生態系ネットワークの形成に取り組み、生物生息環境を保全・再生するとともに、野生生物と地域生活・産業の両立を図り、豊かな自然資本の持続的な活用による地域振興・経済活性化を実現する

## 2. 想定されるロゴの活用方法

- ・ 完成したロゴマークは、取組の認知度向上、関係主体間の連帯感創出を目的として、下記用途などで活用を図る。
  - パンフレット等の印刷物への掲載
  - 生態系ネットワークと連携した取組（保全活動、商品開発、イベント等）における標示 など

## 3. ロゴに表現したいデザイン要素

### （1）ロゴの形状・配色・印象

- ・ モチーフの配置や配色などを通して、上記のメッセージが詳細でなくとも直感的に伝わるようなデザイン。
- ・ 世間にある多数のロゴデザインとの混同が避けられ、一目見たときに印象に残る特徴的なデザイン。
- ・ 10mm程度まで小さく使用してもつぶれずに識別が可能なシンプルさ。

### （2）ロゴに盛り込むモチーフ

- ・ 河川・流域  
（石狩川と判ればなお良い）
- ・ つながり  
（自然と自然のつながりであり、自然と人のつながりであり、人と人とのつながりでもある）

### （3）活用に応じたバリエーション

- ・ 印刷物にはカラー印刷とモノクロ印刷があることから、カラー版と単色版を作成する。
- ・ ロゴタイプ（デザイン文字）も併せて作成し、ロゴマークと組み合わせ使用できるようにする。
- ・ 将来的に、追加モチーフ（星など）を入れることで認証レベルなどを表現できるようにすることも検討。

自然と地域の未来をつなぐ

# 石狩川流域生態系ネットワーク

The Ishikari River Basin Ecological Network



生態系ネットワークを詳しく知るには



川からはじまる  
川から広がる  
魅力ある地域づくり  
国土交通省水管理・国土保全局  
河川環境課

全国で展開している、生態系ネットワークの成り立ちや事例など



生態系ネットワーク  
財政支援制度集  
国土交通省 農林水産省 環境省

各省の支援制度の概要や、制度を活用した、森、川、海、里山などでの事例など

2026年0月 発行

自然と地域の未来をつなぐ  
**石狩川流域生態系ネットワーク**

石狩川流域生態系ネットワーク推進協議会

事務局

国土交通省 北海道開発局 札幌開発建設部

国土交通省 北海道開発局 旭川開発建設部

協力

公益財団法人 日本生態系協会

1 | ネイチャーポジティブのために  
自然と自然、人と人がつながりくらしの基盤をつくる

2 | 生態系ネットワークとは  
生きものの居場所をつなぐ生態系ネットワーク

4 | 石狩川流域の生きものと自然  
大雪山系からそそぐ日本三大河川のひとつ石狩川

6 | 北海道開発局による取り組み  
川から広がる自然のつながり

8 | 生態系ネットワークの参考となる先進的な取組  
市民、NPO  
札幌ワイルドサーモンプロジェクト  
舞鶴遊水地にタンチョウを呼び戻す会  
長沼タンチョウ・ガイドの会

9 | 企業  
日本航空株式会社、イオン北海道株式会社  
株式会社北洋銀行

10 | 自治体  
美唄市  
石狩市  
南富良野町

11 | 物産、観光  
タンチョウおもてなしセレクション  
石狩浜ハマナス再生プロジェクト  
北海道中央バス株式会社

12 | 農林水産  
新砂川農業協同組合  
北海道、  
国立研究開発法人森林研究・整備機構、  
地方独立行政法人北海道立総合研究機構、  
北海道大学農学部  
朱鞠内湖淡水漁業協同組合

コラム  
アオアヲナルトリゾート(徳島県鳴門市)  
JA たじま(兵庫県豊岡市)

14 | 教育  
学校法人坂本学園 大地太陽幼稚園  
北海道大学  
北海道教育大学附属旭川小学校

15 | 報道  
北海道テレビ放送 HTB  
NHK 札幌放送局

16 | 協議会について  
地域の未来をつなぐ協議会

# 自然と自然、人と人がつながり くらしの基盤をつくる

地球には、わたしたち人間とともに多くのさまざまな野生生物が暮らしています。しかし、経済活動などの影響で野生生物の数は減り続け、自然からの恩恵\*が失われつつあります。こうした状況を変えるために、世界では生物多様性の損失を止め、回復へと向かう「ネイチャーポジティブ\*」の考え方が広がっています。

生物多様性を取り戻すためには、さまざまな分野からの取り組みが必要です。その中でも、野生生物が暮らす環境を守り、地域どうしをつないでいく「生態系ネットワーク」という考え方は、その重要なヒントになります。また、この取り組みは地域の活性化や防災にもつながることが期待されており、実現には住民・企業・行政が力を合わせて取り組むことが欠かせません。



北海道の中央を流れる石狩川の流域には、都市部から農林業や漁業が盛んな地域まで、さまざまな地域が広がっています。この流域で、生態系ネットワークをどのようにつくっていくのか、今どんな議論や取り組みが進められているのかをご紹介します。

議論は始まったばかりですが、流域ではすでに多様な主体による素晴らしい取り組みが動き出しています。今後、さらに可能性を広げていくためにも、多くの皆さまにこの取り組みに関心を持っていただき、参加していただければ幸いです。

\*自然からの恩恵(生態系サービス):食料や水、薬、気候調整、水質浄化、生育・生息環境の提供など、自然から得ているさまざまな恵み

\*ネイチャーポジティブ:2030年までに生物多様性の損失を食い止め、回復軌道に乗せることを目指す国際的な目標

## 生きものの居場所をつなぐ 生態系ネットワーク

野生生物が暮らすには、餌場や休む場所、季節ごとの生息地がつながっていることが大切です。生態系ネットワークは、生物多様性が保たれた国土を実現するために、重要な自然環境を核として、生息地同士が互いに支え合いながら機能的につながるように整える取組です。



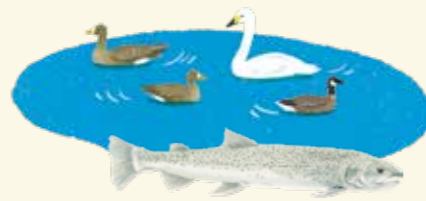
飛んで移動する鳥や昆虫、川を泳いで移動する魚など、野生生物の移動方法は多様です。人が道を歩いて移動するのとは異なり、生きものはそれぞれの特性に応じて、生息地の間を行き来しています。そのため、生態系ネットワークには、こうした生きものの多様な移動を支えるさまざまな“つながり方”が必要になります。

### 取り組みを導くシンボルとなる生きもの



#### 生息地を広げたり つなぐ必要がある生きもの

北海道を代表する生きもの、タンチョウやシマフクロウはかつて道内で広く見られていましたが、明治期以降の乱獲や開拓に伴う生息地の消失で、絶滅危機という深刻な状況に追い込まれました。現在は、道東に分布が偏り、生息地の分散と新たな生息地の拡大が求められています。



#### 広い範囲を 移動する必要がある生きもの

渡り鳥は季節ごとに暮らす場所を変え、毎年数千キロを往復する種もいます。その生活史は、繁殖地・越冬地・渡り途中の中継地の全てが欠けずに機能することで維持されています。サケなどの回遊魚にとっても、川と海を自由に往来できる連続した環境が生存の鍵となります。



#### 地域との関わりが 深い生きもの

もともと生息地が限られるなど、地域の歴史や文化、暮らしの中で深い愛着が育まれてきた生きものは、その地域との結びつきが強い存在です。こうした種は、地域の取り組みを象徴する旗印として機能し、特色をわかりやすく示すとともに、関心を高めるうえで非常に有効です。

## 人のくらしとも 関わりあっています



生態系ネットワークは、自然環境を守るだけでなく、その地域に暮らす人の安全・安心や心の豊かさを育み、地域本来の魅力を掘り起こします。地域と人との新たなむすびつきは、地域の活性化につながることを期待できます。

### 自然再生と防災減災

保全・再生された湿地や森林は、大雨の時に水をたくわえ、川に流れ出す水の量を抑えます。そのため、川の水位の急上昇を防ぎ、下流にあるまちへの被害を軽減することが期待できます。

### 心身の健康やウェルビーイング

自然豊かな環境は、子どもたちの好奇心を育み、大人へは癒しなどをもたらします。感染症などの分野では、人が健康であるためには、生きもの、生態系が健康であることが重要であるという、ワンヘルスという考え方があります。



### 地域産業の発展

環境に優しい農産物のブランド化や、自然景観や野生生物を活かした観光など、自然環境は地域の魅力を高める力となります。また、水源地の保全や地下水の貯留は、地域の産業に欠かせない水資源を持続的に供給します。

### 関係人口の創出

シンボルとなる生きものがきっかけとなって地域間の交流が生まれています。食や観光を通じて自然と共生する地域のくらしに触れることで、その土地への関心や愛着が育ち、都市部など離れた地域に暮らす人も、一緒に地域をつくる仲間になります。



## 大雪山系からそそぐ

## 日本三大河川のひとつ

## 石狩川

北海道の中央を流れる石狩川は、長さ268kmで全国第3位、流域面積は14,330km<sup>2</sup>と全国第2位を誇る大きな河川です。流域には、札幌市や旭川市といった人口の多い都市のほか、農林業や漁業が盛んな地域まで、特色のある46の自治体が広がっています。

石狩川流域には、世界でもここでしか見られない生きものや、季節ごとに渡ってきて、繁殖や越冬、休息の場として利用する生きものなど、多くの野生動物が暮らしています。これは、流域にその生態系を支えている自然環境がある証でもあります。しかし一方で、時代の変化の中で姿を消した生きものもいます。

こうした生きものが再びこの地で暮らせる環境を整え、今ある貴重な自然を守りながら、豊かな自然資本を未来へとつないでいくためには、生態系ネットワークの形成が大切な取組となります。

写真提供:イトウ(南富良野町教育委員会)



マガン



サクラマス



オジロワシ



シマフクロウ



イトウ



タンチョウ



サケ



ハマナス



オオハクチョウ



# 川から広がる自然のつながり

川は、森林や農地、都市などをひとつながりの空間として結び、国土の生態系ネットワークの骨格となる存在であり、まとまった自然環境が残る貴重な場所でもあります。石狩川水系の国直轄区間を管理する札幌開発建設部と旭川開発建設部では、この川的环境を守り、その恵みを活かすためのさまざまな取り組みを進めています。

## 魚がのぼりやすい川づくり

石狩川は平成6年に「魚がのぼりやすい川づくり」推進のモデル河川に指定され、平成10年に実施計画がまとめられました。石狩川や幾春別川、豊平川、さらに豊平川の支川である真駒内川、厚別川など、合わせて96カ所の河川横断施設を対象に、段階的に整備を進め、サケなどの代表的な魚の生息範囲を広げていくことを目指しています。第1段階として、旧花園頭首工、永山床止、大雪頭首工の魚道が整備され、石狩川では、現在、愛別町付近まで魚が遡上できるようになりました。旭川市内でもサケの遡上が確認されています。



大雪頭首工の魚道

## かわまちづくり

国土交通省では、水辺を活かして地域のにぎわいを生み出す「かわまちづくり」を進めています。地域にある資源や知恵を活かしながら、市町村や民間事業者、地域住民と河川管理者が協力し、「河川空間」と「まち空間」をつなげて魅力あふれる場所をつくっていく取り組みです。令和6年度からは、新たに登録される「かわまちづくり」で、自然環境の保全や創出に役立つ「自然再生」に関する区域の整備も行えるようになりました。地域のにぎわいと自然環境の再生を同時に進める、新しい形の取り組みがはじまっています。

石狩川流域の北海道開発局が管理する河川では現在8箇所が登録されています

千歳市かわまちづくり	令和7年8月登録
南富良野町かわまちづくり	令和5年8月登録
江別市かわまちづくり	令和4年8月登録
恵庭かわまちづくり	平成30年3月登録
砂川地区かわまちづくり	平成30年3月登録
旭川市かわまちづくり	平成21年5月登録
旭川駅周辺川まちづくり	令和5年8月登録
美瑛川地区かわまちづくり	平成26年3月登録

## 自然再生事業

石狩川の改修事業が、洪水に対する危険性の軽減や土地開発等、流域の発展に大きく寄与してきた一方、流域及び河川環境が大きく変化してきました。このため、北海道開発局では石狩川において生じている河川環境上の問題点や課題について把握・分析を行い、河川及び流域の自然再生の理念や目標を明らかにすると共に、石狩川本川における良好な自然環境の再生に向けた方策をとりまとめた「石狩川自然再生計画」を平成14年に策定しました。現在は、地区ごとに詳細な検討を行って実施計画を策定しながら事業を進めています。



### 当別地区自然再生

河岸の整備、植樹の推進、湿地や水面の復元を通じて、かつての多様な環境を取り戻し、様々な動植物が生育する「水と生きものの郷」を再生することを目指しています。



### 幌向地区自然再生

かつて広がっていた幌向原野の自然が失われつつあるなか、ミズゴケなど湿生植物の群落を再生し、次世代へ自然を引き継ぐ取組を進めています。



植物写真提供・ほろむい七草の会  
ホロムイリンドウ、ホロムイクグ、ホロムイスケ、ホロムイツツジ、ホロムイイチゴ、ホロムイソウ、ホロムイコウガイ

### 袋地沼地区自然再生

石狩川下流の旧川の一つ、袋地沼を自然再生のモデルとして選び、ワークショップで専門家や地域の声を聞きながら湿地の再生などに向けた計画づくりを進めています。



02

ECOLOGICAL NETWORK + 企業

取組キーワード

ビオトープ整備や水源地保全  
環境保全プロジェクト商品の開発や販売  
地域の自然環境保全の支援

生物多様性の回復をはかるネイチャーポジティブについて、企業ではどのように取り組めるか。その方法のひとつ、生態系ネットワークへの取組は、地域とのつながりを深め、生態系の回復にも貢献します。

日本航空株式会社、イオン北海道株式会社



地域と子どもたちの未来のために

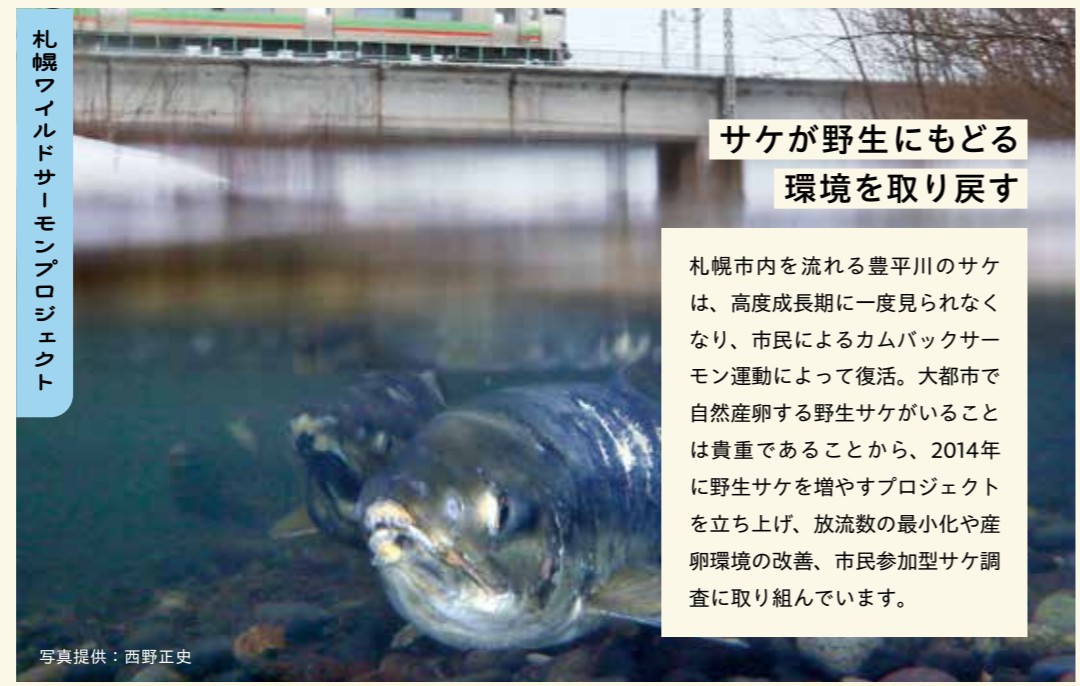
日本航空のシンボルマークである「ツル」への親しみから、JALグループは長沼町の「タンチョウも住めるまちづくり」の観光商品の造成、長沼産野菜の活用や販売などを通して支援しています。イオン北海道は、「幸せの黄色いレシートキャンペーン」を通じて舞鶴遊水地にタンチョウを呼び戻す会や札幌ワイルドサーモンプロジェクトなどの環境保護活動を含む様々な地域活動を支援しています。2025年、両社は連携し千歳川流域の子どもたちに、タンチョウをはじめとした自然と共存する地域社会について学習する、エコハーモニープログラムを舞鶴遊水地を拠点に開始しました。



株式会社北洋銀行

生物多様性を助成金で支援

北洋銀行は、「ほっくーネイチャーポジティブ基金」を通じて、北海道の生物多様性増進(維持・回復・創出)や希少種保護、生息環境の整備等に取り組む様々な団体に対し、2025年までに204件、合計1億60万円を助成しています。北海道に根差した金融機関として、北海道のネイチャーポジティブに貢献する取組を支援しています。



札幌ワイルドサーモンプロジェクト

サケが野生にもどる環境を取り戻す

札幌市内を流れる豊平川のサケは、高度成長期に一度見られなくなり、市民によるカムバックサーモン運動によって復活。大都市で自然産卵する野生サケがいることは貴重であることから、2014年に野生サケを増やすプロジェクトを立ち上げ、放流数の最小化や産卵環境の改善、市民参加型サケ調査に取り組んでいます。

写真提供：西野正史



舞鶴遊水地にタンチョウを呼び戻す会

タンチョウの見守り活動

長沼町の農家による「呼び戻す会」は、明治期以降地域から姿を消したタンチョウを呼び戻し、地域を活性化することを目的に活動しています。舞鶴遊水地でタンチョウが初めて子育てをした2020年、同会はタンチョウに優しい観察方法を普及啓発する「長沼タンチョウ見守り隊」を結成しました。



長沼タンチョウ・ガイドの会

来訪者の理解を深める

タンチョウの生態や、タンチョウが子育てをする舞鶴遊水地という新たな地域資源について、地域住民の理解を深めるために長沼町が行ったガイド講座。その受講生たちによって組織されたガイドグループは、舞鶴遊水地を訪れる観光客へ長沼町の「タンチョウも住めるまちづくり」を伝える案内役となっています。

01

ECOLOGICAL NETWORK + 市民 NPO

取組キーワード

地域の自然の調査・保全活動  
地域内の普及啓発活動  
自分と自然環境との接点を知る

地域の自然はくらしを潤し、防災や減災、地域の産業を持続的なものにするなど、常に市民と共にある存在です。一人ひとりが地域の未来のあり方を考え、選択していくことが持続可能な地域社会をつくります。

04

ECOLOGICAL NETWORK + 物産観光

取組キーワード

自然を活かした商品づくり  
市民・企業・行政と連携した企画  
生きものをテーマにした観光

地域の自然を活かしたものづくりや観光は、その特色が自ずと魅力として現れます。産品や観光を通じた地域や自然の保全・再生のPRは、地域の内外を問わない多くの方の目にふれる機会となります。

タンチョウおもてなしセレクション



地域のシンボルとして商品展開

タンチョウも住めるまちづくりが行われている長沼町では、タンチョウをモチーフとしたお菓子や工芸品が、地域の様々なお店で販売されています。長沼町を訪れた方は、これらの商品を紹介するリーフレット「タンチョウおもてなしセレクション」を片手に、お土産選びや、食事を楽しむことができます。

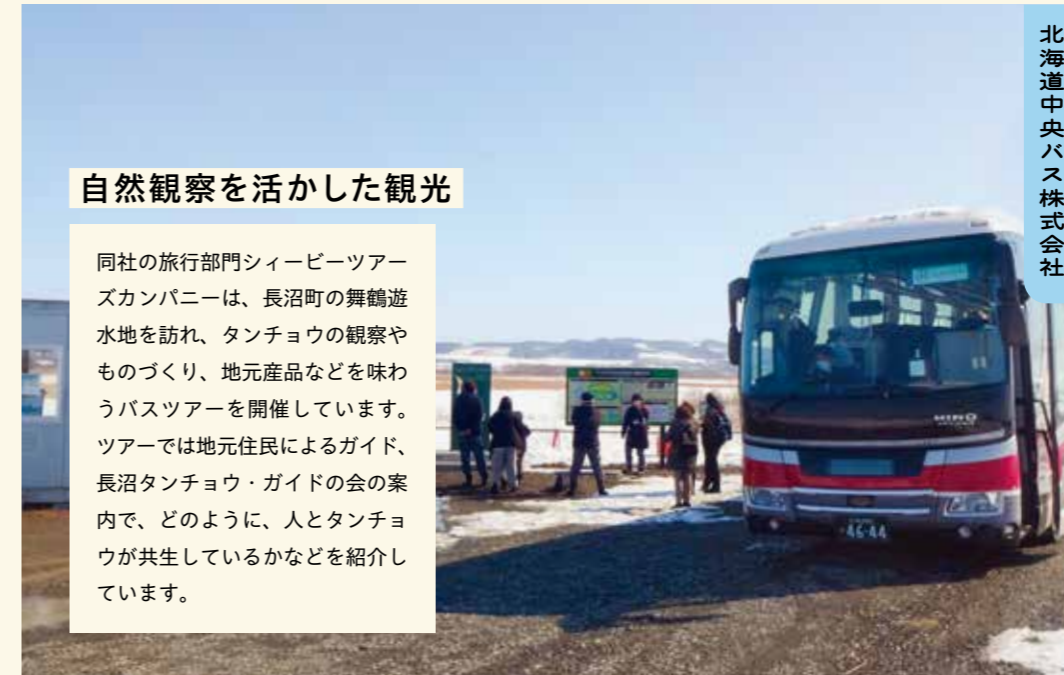
石狩浜ハマナス再生プロジェクト



新たな「ハマナスと人の営み」を創る

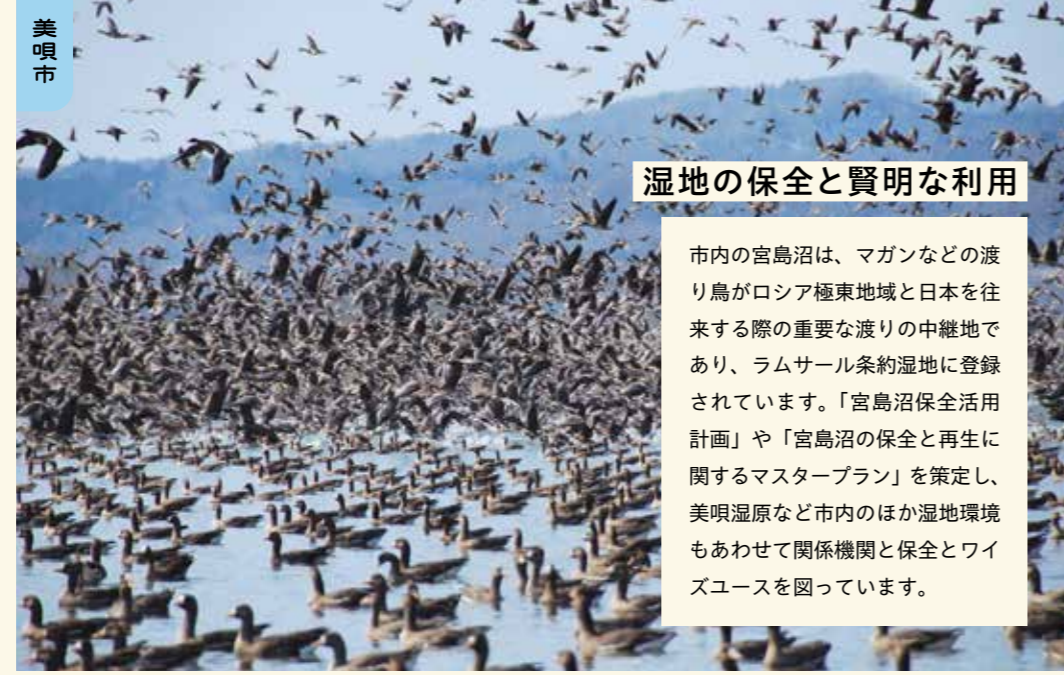
石狩浜ハマナス再生プロジェクトは、ハマナスの咲く石狩浜の風景を未来に残し、ハマナスをシンボルに自然と共生する地域づくりをめざすプロジェクトです。「ハマナス再生園」でハマナスの再生手法の検証に取り組み、花びらや実を素材にしたハマナスプロダクト（食品や化粧品など）を通じて石狩市の自然をPRしています。

北海道中央バス株式会社



自然観察を活かした観光

同社の旅行部門シービーツアーズカンパニーは、長沼町の舞鶴遊水地を訪れ、タンチョウの観察やものづくり、地元産品などを味わうバスツアーを開催しています。ツアーでは地元住民によるガイド、長沼タンチョウ・ガイドの会の案内で、どのように、人とタンチョウが共生しているかなどを紹介しています。



美唄市

湿地の保全と賢明な利用

市内の宮島沼は、マガンなどの渡り鳥がロシア極東地域と日本を往来する際の重要な渡りの中継地であり、ラムサール条約湿地に登録されています。「宮島沼保全活用計画」や「宮島沼の保全と再生に関するマスタープラン」を策定し、美唄湿原など市内のほか湿地環境もあわせて関係機関と保全とワイズユースを図っています。



石狩市

条例を定め海浜植物等を保護

石狩川河口から広がる海岸線の海岸砂丘には多様な海浜植物が生育していましたが、採取や車両乗り入れで減少。そこで市は「石狩市海浜植物等保護条例」を制定し、保護区を定めて海浜植物の自生地を守っています。また、2024年に市内の生物多様性を保全するための「いしかり生き物かけはし戦略」を策定しました。



南富良野町

絶滅危惧種の生息環境整備

北海道のみで生息する絶滅危惧種のイトウ。「南富良野町イトウ保護管理条例」を制定し、繁殖期及び越冬期の保護を図っています。「南富良野町森林・林業マスタープラン」では、イトウの生息環境をつくる、河畔林の保全を定めています。河畔林には餌等有機物の供給や水温上昇の抑制、水質浄化など、さまざまな機能があります。

写真提供：南富良野町教育委員会

03

ECOLOGICAL NETWORK + 自治体

取組キーワード

環境保全の制度づくり  
市民活動や企業活動の支援  
市民への普及啓発

自治体の積極的な自然の保全・再生への関わりは、市民への普及や企業の取り組みがより進みやすくなります。自然資源を見直し、守り伝えていく仕組みがあることで、さまざまな環境が守られています。

朱鞠内湖淡水漁業協同組合



### 持続的な漁業と地域振興

雨竜川上流の朱鞠内湖等を漁場とする同組合は、漁業対象種のサケ科イトウを保護し、持続可能な地域資源とするために、漁具や遊漁区域などにルールを設け、利用の調整を行っています。また、イトウが絶滅した河川の環境を改良し産卵個体群を復活させる事業や、地域の子どもたちがイトウに親しむ環境教育を行っています。

Column

他地域の事例

**農林水産** 兵庫県豊岡市  
JAたじま  
希少な生きものが生息するその環境が、生み出す価値

1971年に一度野生絶滅したコウノトリは、2005年に再び兵庫県豊岡市から日本の空にはばたきました。コウノトリ復活のために、豊岡市では農業や化学肥料に頼らない「コウノトリ育む農法」という環境創造型農業に取り組み、この農法で栽培された米は一般的な農法に比べて高値で買い取られ、農家の所得増につながっています。



写真提供：JAたじま

**物産観光** 徳島県鳴門市  
アオアヲ ナルトリゾート  
宿泊者とホテルがともに地域の環境保全に貢献

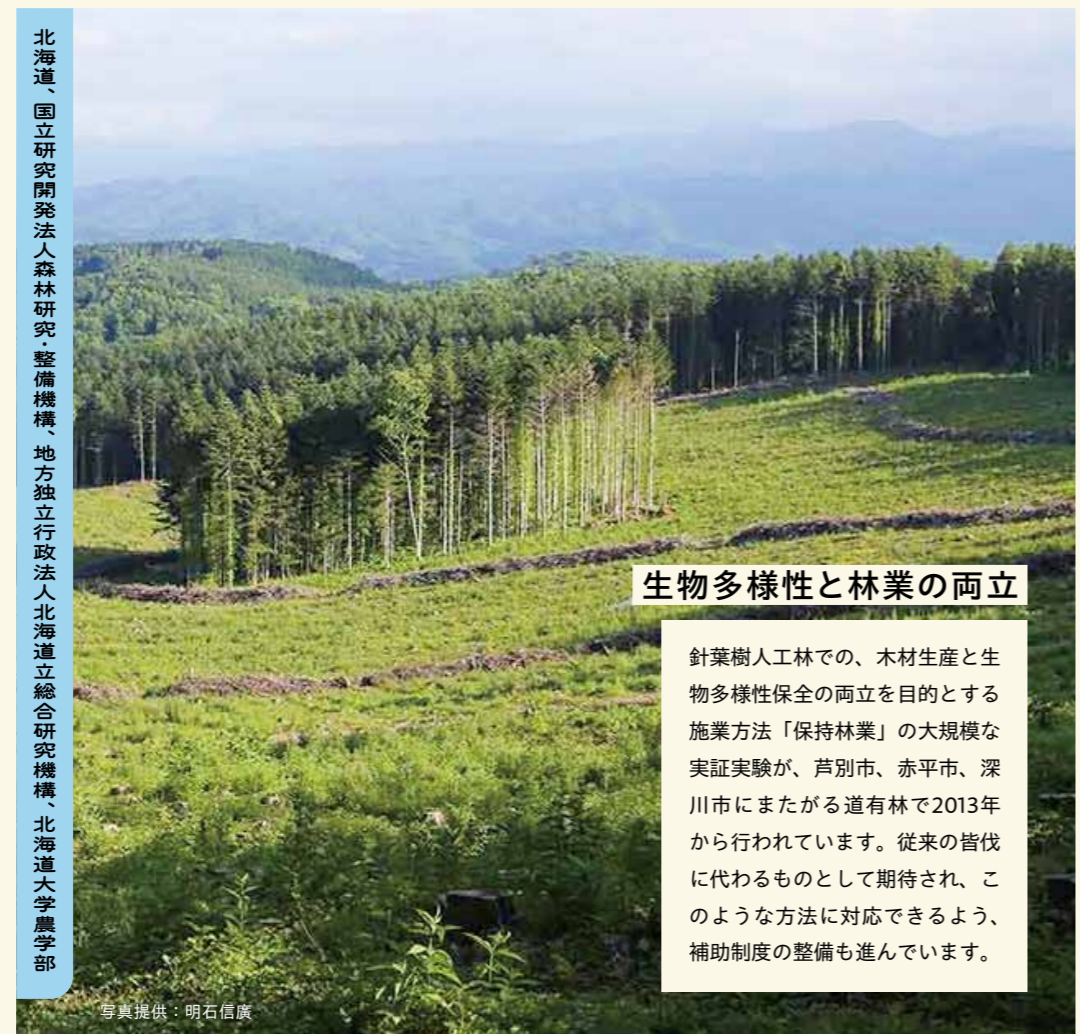
コウノトリが暮らす、美しい鳴門の環境保全に貢献する「SDGsコウノトリ応援宿泊プラン」を販売しています。宿泊費から1泊1人100円、ホテルからも1泊1人200円の計300円が「とくしまコウノトリ基金」へ寄付されます。プラン利用者にはコウノトリ観察ガイドマップの配布や、スペシャルデーには「コウノトリれんこん」掘りが体験ができるイベントも開催。



新砂川農業協同組合

### からだにも環境にも 良いお米を届ける

「ゆめぴりかの里」として知られるJA新すながわは、栽培期間中農業や化学肥料を使わず栽培した米を、2023年に初出荷しました。農協が主導して無農薬栽培に取り組む事例は全国的にも珍しいですが、消費者に選んでもらえる産地づくりを目指して、意欲のある生産者との連携により、食味にもこだわった安全・安心な米づくりを推進しています。



北海道、国立研究開発法人森林研究・整備機構、地方独立行政法人北海道立総合研究機構、北海道大学農学部

### 生物多様性と林業の両立

針葉樹人工林での、木材生産と生物多様性保全の両立を目的とする施業方法「保持林業」の大規模な実証実験が、芦別市、赤平市、深川市にまたがる道有林で2013年から行われています。従来の皆伐に代わるものとして期待され、このような方法に対応できるよう、補助制度の整備も進んでいます。

写真提供：明石信廣

05

## ECOLOGICAL NETWORK + 農林水産

取組キーワード

農薬や化学肥料の低減  
生きものの生息環境づくり  
自然に優しい産物のブランド化

自然とともにある一次産業。田んぼは、かつての氾濫原に代わり、魚や水生昆虫の生息場所にもなっています。農薬や化学肥料を減らしたり、魚が泳げる水路づくりなど、生きものの生息環境が増えています。

07

ECOLOGICAL NETWORK + 報道

取組キーワード

環境保全活動の報道・普及啓発  
環境保全プロジェクトの企画  
自然環境保全の支援

報道機関は、新聞、テレビ、インターネットなどを通し、広く情報を伝えることができます。地域の自然や保全活動への継続的な取材は貴重な記録・資料となり、新たな知見の提供や、世の中を動かす原動力になります。

北海道テレビ放送HTB



自然と人の記録が心を揺さぶる

かつては湿地が広がりツルの繁殖地だった長沼町。明治期の乱獲で姿を消したツルを再び呼び戻し、地域を活性化していくために「タンチョウも住めるまちづくり」を推進します。取組当初から7年間の取材を記録したドキュメンタリー映画「奇跡の子 夢野に舞う」が2024年に全国の劇場で上映され、今は映像を貸し出して各地で上映会が続いています。町の懸命な取組を広く伝えています。

NHK札幌放送局



地域の取組を  
わかりやすく伝える

札幌市のサケ復活を目指す市民運動は、10年前に放流から野生サケ保全（SWSP）へと舵を切りました。NHKはその様子を報道し続けています。水の中という見えにくい世界に暮らすサケのことを、映像としてわかりやすく伝えることにも貢献してきました。また、2024年～2026年のSWSP市民フォーラムがNHK札幌放送局を会場に開催されました。

NHK番組「サケカメラ2023-2024」で放送された魚道を登るサケの映像

園庭ビオトープがはぐくむもの

北広島市にある大地太陽幼稚園の園庭には、草むらや森が広がり、生活環境全体をビオトープとすることで、子どもの探求心や当たり前に「豊かな自然を守り、創造したい」と思う心を育てています。また、環境を維持するために周辺の土地を購入してビオトープとして保全しています。全国学校・園庭ビオトープコンクール2025で優秀賞を受賞しました。



写真提供：「大地太陽ドキュメンテーション2025」実生苗を守る家

北海道大学

川の形状が生み出す環境

雨竜川上流域の広大な雨龍研究林に流れるプトカマベツ川では、朱鞠内湖淡水漁業協同組合や自治体と連携して川を昔の形状に戻し、氾濫原を再生させるプロジェクトを実施。講義をきっかけに、学生を中心に結成された「ホロカナイプロジェクト」では、朱鞠内湖や原生林などの自然を大切にしながら、幌加内町の人口減少対策を応援する活動が行われています。



写真提供：小林真

川との共生を多角的に考える

通学範囲が広い附属旭川小学校は、全校共通の学習テーマに市内に多く流れる「川」を選びました。4年生は、地域の河川や自然をよく知る指導者から川に暮らす生きものや、治水と環境との関係などを学び、「川とともに生きるまちづくり」について自分たちの考えを深めます。令和6年度には第32回全国川サミット in 旭川で児童たちが学習の成果を発表しました。

北海道教育大学附属旭川小学校



06

ECOLOGICAL NETWORK + 教育

取組キーワード

環境教育の場  
学校や園庭でのビオトープづくり  
研究フィールドとして活用

子どもの心身の発達を支えたり、自然科学の知識や好奇心を育むには、自然環境は絶好のフィールドです。理科や総合学習、探求の時間の授業や課外活動は、子どもたちが自然とふれあう良い機会となります。

石狩川流域生態系ネットワークをかたちづくる

# 地域の未来をつなぐ協議会

北海道の開拓がはじまってから約150年、自然環境は大きく姿を変えました。かつては大きく蛇行していた石狩川も、治水や開拓のために直線化が進み流路は約100km短くなりました。石狩低地帯に広がっていた広大な湿原は地下水位の低下や埋め立てによって失われ、今ではそのほとんどが姿を消しています。一方で、この地域は日本の食料供給を支える重要な農業地帯として発展してきました。

これからは、野生生物の生息地を守ることが、人の暮らしを守り豊かにすることにもつながるといいう考え方が大切になります。どんな未来が地域にとって望ましいか。市民、NPO、企業、教育機関、専門家、行政が、それぞれの立場から意見を出し合い、実現に向けて動き始めています。

## 石狩川流域生態系ネットワーク 推進協議会

主な目的

- 生物と生活・産業の共存
- 自然環境の保全・再生・創出
- 自然資本を活用した振興
- 生態系ネットワークの形成

【構成員】石狩川流域46市町村、学識者、行政機関、関係団体等  
【下部組織】企画部会

2024.2  
設立

## タンチョウと共存できる 流域づくり協議会

主な目的

- タンチョウと生活・産業の共存
- 生息環境の保全・再生・創出
- 持続可能な地域づくり
- 生態系ネットワークの形成

【構成員】北広島市、長沼町、学識者、行政機関  
【下部組織】生息環境専門部会、長沼町タンチョウも住めるまちづくり専門部会

2024.12  
発展的改組

## イトウも棲めるまちづくり 推進協議会

主な目的

- イトウを活用した地域振興
- 生息環境の保全・再生・創出
- 持続可能な地域づくり
- 生態系ネットワークの形成

【構成員】南富良野町、幌加内町、学識者、関係団体、行政機関  
【下部組織】生息環境ワーキンググループ、地域振興専門部会

2025.8  
設立

2016.9  
タンチョウも住めるまちづくり検討協議会 設立



## 石狩川流域生態系ネットワーク

### 46市町村

札幌市	三笠市	北広島市	長沼町	北竜町	東川町
旭川市	千歳市	石狩市	栗山町	沼田町	美瑛町
夕張市	滝川市	当別町	月形町	鷹栖町	上富良野町
岩見沢市	砂川市	新篠津村	浦臼町	東神楽町	中富良野町
美瑛市	歌志内市	南幌町	新十津川町	当麻町	南富良野町
芦別市	深川市	奈井江町	妹背牛町	比布町	幌加内町
江別市	富良野市	上砂川町	秩父別町	愛別町	
赤平市	恵庭市	由仁町	雨竜町	上川町	

## 第3回 石狩川流域生態系ネットワーク推進協議会

# 次年度に向けた意見交換

---

令和8年2月13日  
札幌開発建設部

# 生態系ネットワークが目指す姿

協議会は、**流域内の多様な主体による取組を共有**しながら、流域の生物多様性を保全し、生態系ネットワークとしてつなぐことで、ネイチャーポジティブを実現することを目指す。

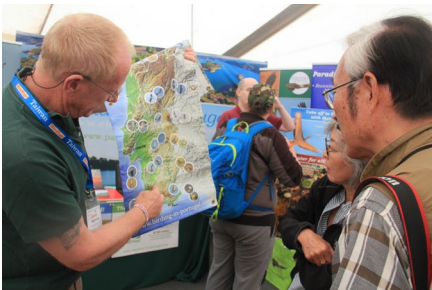
生物多様性の保全は地域振興にも良い効果をもたらすことが期待される。

## 観光への活用

英国の事例

【国際バードフェア (Global Birdfair)】

- 英国はバードウォッチング発祥の地で、国民の10人に1人は野鳥観察を趣味としていると言われている。
- 1989年に第1回バードフェアが開催。2021年、コロナ禍のため中止となるが、2022年に国際バードフェアとして引き継がれた。
- バードウォッチングに係る各種催しに加えて、世界中の政府観光局やツアー会社、ホテル等が出展し、参加者は野鳥観察旅行の情報を求めて来場する。
- 2026年は、7月10日～12日に開催予定。



平成30年度に実施された視察の様子  
(日本生態系協会)

## 農業への経済効果

米国テキサス州の事例

【メキシコオヒキコウモリの保全と活用】

- 米国の農業においてコウモリによる害虫採食は年間220億ドル以上の節約をもたらすと推定されている。
- コウモリのエコーロケーションは、ガの産卵行動を抑制し、被害を軽減する効果もある。
- テキサス州だけでも、メキシコオヒキコウモリなどのコウモリが農家や牧場主に年間14億ドル(約2,100億円)の節約をもたらしていると見積もられている。



コウモリが飛び立つブラッケン洞窟  
(日本生態系協会)

## 防災・減災への寄与

米国カリフォルニア州の事例

【ヨーローバイパス (Yolo Bypass)】

- サクラメント川洪水管理プロジェクトのひとつとして整備されたヨーローバイパス(季節的な洪水から都市部を守るための遊水地のような場所、全体で23,982ha)の一部を、州政府が野生生物のハビタット保全・再生を目的とした土地取得をしている。
- 6,776haの管理面積のうち、5割は稲作や採草・放牧用にリース、他はハンティングエリアもあり、リース代、入猟ライセンス代が維持管理の財源となっている。
- 3年に1回の頻度で洪水を受け止めており、治水と環境を両立したグリーンインフラとなっている。



リースされた水田では稲収穫後湛水し渡り鳥のハビタットとなっている  
(日本生態系協会)

# 全国の生態系ネットワークに係る協議会における指標種の設定状況

生態系ネットワークに係る協議会は全国の各地域で設立されており、多くの協議会が生態系ネットワーク形成の指標種を設定している。広域のネットワーク形成を目指した指標種として、大型水鳥類を設定している例も多い。

地域	指標種	生態系ネットワークに係る協議会
東北全域	大型水鳥類等を候補に示している	東北生態系ネットワーク推進協議会
		岩木川流域生態系ネットワーク検討委員会
関東地域	コウノトリ、トキ	関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会
		コウノトリの舞う地域づくり連絡協議会
		利根川下流域エコネット・地域づくり推進協議会
		渡良瀬遊水地エリア エコロジカル・ネットワーク推進協議会
		荒川流域エコネット地域づくり推進協議会
越後平野	ガン類、ハクチョウ類、トキ	越後平野における生態系ネットワーク推進協議会
福井県全域	コウノトリ等	福井県流域環境ネットワーク協議会
木曽川流域	イタセンパラ、ハリヨ等	木曽三川流域生態系ネットワーク推進協議会
桂川流域	鳴く虫	鳴く虫がつなぐ桂川流域生態系ネットワーク協議会
円山川流域	コウノトリ	コウノトリ野生復帰推進連絡協議会
斐伊川流域	ハクチョウ類、ガン類、ツル類、コウノトリ、トキ	斐伊川水系生態系ネットワークによる大型水鳥類と共に生きる流域づくり検討協議会
四国圏域	コウノトリ、ツル類	四国圏域生態系ネットワーク推進協議会
		徳島県流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会
		四万十川流域生態系ネットワーク推進協議会
		肱川流域生態系ネットワーク推進協議会
遠賀川流域		遠賀川流域生態系ネットワーク形成推進協議会

## 広域を検討対象とする指標種(大型水鳥類等)候補



大型水鳥類等 (画像出典：東北生態系ネットワーク推進基本計画)



ガン類・ハクチョウ類・トキ (画像出典：越後平野における生態系ネットワーク形成全体構想)



コウノトリ、ナベヅル (画像出典：四国圏域生態系ネットワーク全体構想)

## 大型水鳥類

- 生態系ネットワークの連結性を示す。
- よく目立ち、多くの人々に対して取組の効果を実感してもらいやすい。

# 指標種を活かした地域振興に向けた取組事例

「関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会」は、生態系ネットワーク構築の意義や周知PRによる認知度の向上を目的とした情報発信手法を検討した結果、平成28年度にジャパンバードフェスティバルにブース出展することとなり、以降毎年このイベントに参加している。

「コウノトリ・トキの舞う関東自治体フォーラム」「野田市コウノトリと共生する地域づくり推進協議会」との3組織合同ブースとしており、組織間の連携意識の向上や来場者の幅広く深い理解を可能としている。

## ジャパンバードフェスティバル

千葉県我孫子市手賀沼周辺にて行われる、鳥をテーマにした日本最大級のイベント。行政・NPO・学生・市民団体などによる鳥・自然環境に関する研究・活動の発表、鳥の彫刻・絵画・写真展や、子供工作教室、船上バードウォッチングやスタンプラリーなど。

### ◆目指す方向性が共通している3組織

#### 関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会

平成26年設立。広域連携モデルとしてのエコロジカル・ネットワークの形成によるコウノトリ・トキの舞う魅力的な地域づくりの実現を目的とした協議会。  
事務局：国土交通省関東地方整備局河川部河川環境課  
委員：学識経験者12名、関係自治体の長6名、民間団体代表3名、関係行政機関19名

パネル展示、パンフレット配布など

#### コウノトリ・トキの舞う関東自治体フォーラム

平成22年設立。関東地方における「エコロジカルネットワーク形成」「魅力的な地域づくり」を目指して発足した自治体間ネットワーク。令和7年5月現在28市町が参加している。

パネル展示、グッズ（軍手）配布、物販など

#### 野田市コウノトリと共生する地域づくり推進協議会

千葉県野田市における地域の生物多様性の保存・再生・創造等に資することを目的とした、協議会。

パネル展示、折り紙体験、物販など

モニターを1台設置し、3組織の動画を順に放映している。



3組織合同でアンケートを実施。来場者は一枚のアンケートで3組織の質問に答えられる。



# 石狩川流域でシンボルとなりえる大型水鳥類

石狩川流域でシンボルとなりえる大型水鳥類として、タンチョウ、ガン類・ハクチョウ類が考えられる。

## ■タンチョウ



- 日本最大の鳥類であり、優美な姿で長寿やおめでたい象徴として認知されている。
- 世界でも通年で生息するのは北海道と中国のみ。
- 石狩川流域でも飛来や繁殖が確認。令和2年に舞鶴遊水地で100年以上ぶりの繁殖確認となった。

画像出典：タンチョウと共存できる流域づくり協議会



画像出典：IUCNレッドリストをもとに加筆

## ■ガン類・ハクチョウ類



- 石狩川流域はガン類・ハクチョウ類の「北海道中央フライウェイ」。秋と春の飛来風景は毎年の風物詩だが、地域外から見ると特別な光景。
- シジュウカラガンやハクガンは、一時期ほぼ絶滅状態になったが、日本の市民団体がロシアやアメリカと共同で行った保護活動の結果、近年石狩川流域でも見られるようになってきている。

写真はマガン



※指標種・シンボル種は大型水鳥類に限らない。連結性や地域性を踏まえた多様な生きものが設定可能。

# エコハーモニープログラム (日本航空、イオン北海道)

日本航空とイオン北海道は、令和7年度より「エコハーモニープログラム」を開始した。

## 令和7年度の開催概要

- 第1回  
開催日：6月29日（日）  
テーマ：自然と生き物たちのつながり「生態系ネットワーク」を舞鶴遊水地で学ぼう！
- 第2回  
開催日：9月13日（土）  
テーマ：舞鶴遊水地の自然をもっと観察しよう
- 第3回  
開催日：10月18日（土）  
テーマ：みんなもできる生態系ネットワーク



第1回は、舞鶴遊水地を見学し、生態系ネットワークについて学習した。タンチョウを守るメッセージを込めたポスターを作った。



第2回は、遊水地に流れ込む幌内川で、水の中に暮らす生きものを観察した。タンチョウが1日食べる量をはるかに上回る量の生きものを捕まえた。



第3回は、自然栽培に取り組む地元農家と一緒に農業体験をした後、生態系ネットワークをつくるためにできることを班ごとに考えた。

# 舞鶴遊水地を観光スポットとして活用する取組 (北海道中央バス、長沼タンチョウ・ガイドの会)

タンチョウが繁殖する長沼町の「舞鶴遊水地」では、令和3年度より舞鶴遊水地を観光スポットのひとつとして活用するバスツアー（当初はモニターツアー）が開催されている。バスツアーでは、地元住民団体「長沼タンチョウ・ガイドの会」が観光客を舞鶴遊水地を案内している。

## 経緯

令和3年度 北海道中央バスの協力により、ガイド養成講座とモニターツアーが開催

令和4年度 北海道中央バスと日本航空の協力により、ガイド養成講座とモニターツアーが開催

令和5年度以降は北海道中央バスの自主事業としてバスツアーが催行されている。

ツアー商品によって、日本航空の協力による新千歳空港バックヤードツアーなどとも連携している。

令和5年、ガイド養成講座受講者を中心として「長沼タンチョウ・ガイドの会」が発足。



長沼タンチョウ・ガイドの会の解説

**北海道中央バス(株)**  
シーベアーズカンパニー

コースコード XCD054  
日帰り・札幌発着

南空知ふるさと市民団体組合 企画  
「南空知北海道バスツアー2025」

### 南空知の大地の恵みを体験するツアー 第二弾 岩見沢市・長沼町編

【観光地】 雪印乳業工場見学(見学)

■ 実施日 / 2025年7月20日(土)  
■ 出発地 / 札幌市5区10丁目(北空知1人乗、子ども乗席)  
■ 所要時間 / 約4時間(札幌市5区10丁目からの予約で約4.5時間)  
■ 乗車人数 / 50名  
■ 乗車料金 / 12名  
■ 乗車時間 / 約4時間  
■ 乗車時間 / 約4時間  
■ 乗車時間 / 約4時間

【おすすめポイント!】  
・ グリーン・フィールド 緑豊かな風景の中で、新鮮な野菜や果物の収穫体験。  
・ 雪印乳業工場見学(見学) 最新の製乳設備や、新鮮な牛乳の生産過程を体験。  
・ 雪印乳業工場見学(見学) 最新の製乳設備や、新鮮な牛乳の生産過程を体験。  
・ 雪印乳業工場見学(見学) 最新の製乳設備や、新鮮な牛乳の生産過程を体験。

https://www.cb-tours.com

**北海道中央バス(株)**  
シーベアーズカンパニー

コースコード XCD060  
日帰り・札幌発着

長沼町役場 施設連携推進課 企画  
「長沼～タンチョウも住めるまちづくり～」

### 自然と食とモノづくりのまちを巡る

【観光地】 雪印乳業工場見学(見学)

■ 実施日 / 2025年11月27日(木)  
■ 出発地 / 札幌市5区10丁目(北空知1人乗、子ども乗席)  
■ 所要時間 / 約4時間(札幌市5区10丁目からの予約で約4.5時間)  
■ 乗車人数 / 50名  
■ 乗車料金 / 12名  
■ 乗車時間 / 約4時間  
■ 乗車時間 / 約4時間

【おすすめポイント!】  
・ 雪印乳業工場見学(見学) 最新の製乳設備や、新鮮な牛乳の生産過程を体験。  
・ 雪印乳業工場見学(見学) 最新の製乳設備や、新鮮な牛乳の生産過程を体験。  
・ 雪印乳業工場見学(見学) 最新の製乳設備や、新鮮な牛乳の生産過程を体験。

https://www.cb-tours.com

令和7年度のバスツアーチラシ

# マガンのねぐら入りを観察するバスツアー (美唄市、宮島沼の会)

美唄市の「宮島沼」は春と秋に数万羽のマガンが飛来するラムサール条約登録湿地であるが、交通アクセスに課題があり、令和6年度より飛来のピーク時に、JR美唄駅と宮島沼を結ぶバスの試験運行を実施したほか、車内及び宮島沼の観察時にガイドを実施した。また、令和7年度は、市内事業者や地域おこし協力隊と連携して本市の特産品等のPRを行った。

## 宮島沼バスガイドツアー(R6・R7実施)

開催日	R6.4.20(土)	R6.10.6(日)	R7.4.19(土)	R7.9.27(土)
定員	20名	20名	20名	20名
参加者	23名	4名	20名	20名
料金 (ガイド料・ 保険料込み)	無料	1,000円	1,000円	1,000円

## 美唄市特産品等PR事業(R7実施)

開催日：春：4月19日(土)、20日(日) 4:00~5:30  
秋：9月27日(土)、10月4日(土) 15:00~18:00

開催内容：4月は早朝のマガンの「ねぐら立ち」に訪れる方へ、自家焙煎コーヒーや美唄産のお菓子を販売。  
9月、10月は夕方のマガンの「ねぐら入り」に合わせて、自然戦隊マガレンジャーとのコラボお菓子や美唄産新米おにぎり、地元野菜を使用したステーキサンド等を販売。

日 時 2025年9月27日(土) 15:50~18:30  
定 員 先着20名(事前申込制)  
料 金 1,000円(ガイド料・保険料込み)

バス運行スケジュール(雨天決行)  
美唄駅西口バス乗り場【発着】 宮島沼水鳥・湿地センター  
集合15:50 出発16:00 到着18:30 出発16:30 出発18:00

主催 美唄市 9月24日(水)17時までにQRコードもしくは電話よりお申し込みください  
宮島沼の会 TEL:0126-62-3145 MAIL:kankyou@city.bibai.lg.jp



上：ガイドによる解説 下：マガンのねぐら入り



特産品PRの様子



左：自然戦隊マガレンジャーとコラボした美唄産ブレンド小麦を使用した焼菓子  
右：マガレンジャーがイラストを考案したコーヒーのドリップパック

# 協議会での情報共有等の今後の予定

石狩川流域生態系ネットワーク推進協議会においては、多様な主体の連携と協働のもと、健全な生態系ネットワークの形成に取り組み、生物生息環境を保全・再生するとともに、野生生物と地域生活・産業の両立を図り、豊かな自然資本の持続的な活用による地域振興・経済活性化を実現することを目指して、今後も情報共有や取組の推進を行う。



○大型水鳥以外にも多様な生物が生息する。

## イトウ

日本最大の淡水魚であり、幻の魚として釣り人気も高い。世界でも北海道、サハリン、千島列島、ロシア沿海州にのみ生息し、IUCNレッドリストではCR（深刻な危機）と評価されている。



○残存する氾濫原湿地・湖沼も石狩川流域を特徴づける。

かつての石狩川は縦横に蛇行、氾濫を繰り返しながら石狩原野を流れていた。石狩川下流では、1910年に開始された拓殖計画以降、29か所の捷水路が整備され、約60km短縮された。蛇行河川の名残は、河跡湖（旧川）として今も見ることができる。



○様々なテーマで流域内の取組などを協議会の場で共有

○氾濫原湿地・湖沼の価値や賢い利活用を考える勉強会を実施

## 石狩川流域生態系ネットワーク推進協議会 設立趣旨

石狩川は、その源を大雪山系の石狩岳に発し、層雲峡、上川盆地を経て石狩平野に入り、雨竜川、空知川、幾春別川、夕張川、千歳川、豊平川等の多くの支川を合せ、日本海にそそぐ我が国屈指の大河であり、全国二位の面積を誇る石狩川流域には、数多くの中小河川や後背湖沼、旧川、遊水地、ラムサール条約湿地に登録された国際的に重要な地域等、多様な水辺環境を有しています。それらは魚類や鳥類等をはじめとした数多くの生物の生息環境であり、石狩川流域に暮らす人々の大切な財産です。これまで石狩川流域では、河畔林等の樹林環境の保全・再生や、「石狩川下流自然再生計画」に基づく当別地区や幌向地区における自然再生等の取組を進めてきました。

近年、気候変動とともに、生物多様性に関する注目が高まっており、自然環境が有する多様な機能を生かし強靱で持続可能な国土の形成に資するグリーンインフラの整備や、保全すべき自然環境や優れた自然条件を有している地域を核として、これらを有機的につなぐ生態系ネットワーク形成の取組が全国各地で進められています。これらの取組は、生物多様性の損失を止め、反転させるネイチャーポジティブの実現に資するものです。森や里山、農地、都市、海などを連続する空間として繋ぎ、治水・利水・環境を担う河川と連携した地域づくりは、行政・民間事業者・市民など多様な主体が参加し、よりよい流域社会を創造するために統合的にアプローチする時代を迎えています。

こうした背景を受けて、多様な主体の連携と協働のもと、健全な生態系ネットワークの形成に取り組み、生物生息環境を保全・再生するとともに、野生生物と地域生活・産業の両立を図り、豊かな自然資本の持続的な活用による地域振興・経済活性化を実現するための方策の検討と取組の推進を目的として、「石狩川流域生態系ネットワーク推進協議会」を設立いたします。

令和8年2月25日(水) 14時30分～16時30分 「会場」一橋大学一橋講堂 中会議場2-4 東京都千代田区一ツ橋



第10回

水辺からはじまる  
生態系ネットワーク  
全国フォーラム

〔主催〕国土交通省 〔共催(予定)〕農林水産省 環境省

〔後援(予定)〕(公社)日本河川協会 (公財)河川財団 経団連自然保護協議会 (一社)全国銀行協会 全国知事会



(公社)土木学会認定CPDプログラム

# 水辺からはじまる 生態系ネットワーク 全国フォーラム

河川を基軸とした生態系ネットワーク形成の取組が始まり約10年。国土交通省をはじめ、多様な主体の連携・協働による取組のプラットフォームとなる協議会が各地域に設置されました。良好な生態系の指標となるコウノトリやツル類の繁殖成功などを契機に各地で農業や観光、教育など多分野で地域活性化への動きが着実に進みつつあります。

今回のフォーラムでは、これまで各地域の協議会で蓄積された成果や課題に関する知見を共有するとともに、生物多様性保全と地域活性化に係る先進事例等を踏まえ、持続可能な社会の構築に向けた「ネイチャーポジティブ（自然再興）」の実現につながる川づくり・地域づくりについて、今後の10年を展望します。



## プログラム

- 14:00 開場  
オンライン配信開始
- 14:30 開会挨拶  
国土交通省 水管理・国土保全局長 林 正道
- 14:35 特別講演  
「(仮) 生物多様性の保全とビジネス」  
株式会社バイオーム 取締役COO 多賀 洋輝
- 15:05 パネルディスカッション  
「生態系ネットワーク形成 これまでの10年、今後の10年  
—生きもののつながり、人のつながり—」

### パネリスト

石狩川流域生態系ネットワーク推進協議会 会長  
中村 太士 北海道大学名誉教授

越後平野における生態系ネットワーク推進協議会 会長  
関島 恒夫 新潟大学 農学部 教授

鳴く虫がつなぐ桂川流域生態系ネットワーク協議会 会長  
鎌田 磨人 徳島大学大学院 社会産業理工学研究部 教授

認定NPO法人与くしまコウノトリ基金 事務局長 柴折 史昭  
国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境課長 島本 和仁

### コーディネーター

(公財) 日本生態系協会 専務理事 関 健志

### 16:30 閉会

プログラムや出演者が変更となる場合があります。予めご了承ください。

\*敬称略

## 開催概要

令和8年2月25日(水) **参加費無料**

14時30分～16時30分 開場14時

[定員] 会場:150名 オンライン:500名



一橋大学 一橋講堂 中会議場2-4  
〒101-8439 東京都千代田区一ツ橋2-1-2  
学術総合センター 2F

東京メトロ半蔵門線、都営三田線、都営新宿線 神保町駅 (A8・A9 出口) 徒歩4分  
東京メトロ東西線 竹橋駅 (1b 出口) 徒歩4分

### お問い合わせ

(公財) 日本生態系協会 全国フォーラム係  
電話 03-5951-0244 FAX 03-5951-2974  
E-mail: enforum@ecosys.or.jp

### お申し込み

二次元コードよりお申し込みください  
締切: 令和8年2月23日(月) 先着順



本フォーラムは公益社団法人土木学会のCPDプログラムに認定(2.0単位)されています。受講証明書をご希望の方は、本フォーラム終了後1週間以内に、聴講して参考になった点をご提出ください(100文字以上、書式不問)。提出方法等は別途お申し込みの方にご案内します。